

第42回全国学童保育研究集会 in 東京 2007年11月10・11日

●全体会(10日[土]):両国国技館 ●分科会(11日[日]):中央大学(多摩キャンパス)&明星大学(日野キャンパス)!

TOKYO全国研まで、あと196日 2007. Apr. 1

東京実行委員会事務局●2007年4月28日発行

Gakudo Renkyo Communication Issue (TOKYO ZENKOKUKEN HEND MIGHI DOSUKOI!)

イメージづくりに最高っ!

あります!
感動・実感DVD
「第35回兵庫研究集会」
(15min)
“うん、これはよくわかる”
“いいね〜全国研!”
と
大好評!!



東京都の後援も決定し、いよいよ本格的に始動!!
はっけよーい!「第42回全国学童保育研究集会 in 東京」!
全体会(10日sat.)は、両国国技館! 分科会(11日sun.)は、
中央大学(多摩キャンパス)&明星大学(日野キャンパス)!
記念講演講師は、松崎運之助先生(映画「学校」のモデル)です!

TOKYO全国研への道!

全国研究集会は——

●広く一般にひらかれ、わたしたち学童保育当事者の願いでつくりあげる“ひとりひとりが主役”の研究集会です!
——そうなんです! 学童全国研は、自分たちのために自分たちがつくりあげる当事者たちの学び合いの場なんです。そして、役員・指導員・一般の親・世話人・要員など関係なく、学童保育に関わるすべての人が当事者なんです。

ひとりひとりが全国研究集会をつくりながら——

- 学童保育の要求と実践・運動、働きながらの子育てに確信と元気の素をもって、地域でがんばる力を!
- 学習&交流をとおして、成果や教訓を分かち合い、課題を確かめ、学童保育の実践と運動の前進を!
- 「運動」として取り組み、全国・開催地(東京)の学童保育運動を発展させるきっかけに!
- 全国学童保育連絡協議会の財政確保を!

“全国研究集会に取り組む”——一番得するのは開催地!

- 組織と運動の広がりづくりを!
 - ①ぜひ、地域連絡協議会の組織の発展に!
 - 連絡協議会への求心力づくり ■未組織地域の組織化 ■人材(新しい役員・運動の担い手)の掘り起こし ■財政確立
 - ②ぜひ、学童保育運動の基礎づくりを!
 - すべての学童保育に父母と指導員で組織する父母会を ■多くの父母・指導員の力を結集し、運動への確信を ■『日本の学童ほいく』誌をすべての父母・指導員、行政に
- 取り組みのポイントはココっ!
 - ①運動と実務の関係を明確に!
 - 「組織と運動を発展させるために、どういう取り組みをするか」の視点が第一! ■「実務」にはばかり目をうばわれない! ■具体的な実務があいまいになりやすいので「連絡協議会の責任・役割・仕事」と「実行委員会の仕事・役割」を明確にする ■判断・決定のシステムを整理し、確認する
 - ②組織と運動の具体的な目標を明確に!
 - 参加目標とその実現の手立てをはっきりと!——すべての自治体から後援・参加を! /すべての自治体に足を運ぼう! /〇〇地域に父母会をつくらう! /〇〇地域に連絡協議会を結成しよう! /『ほいく』誌を〇〇に増やそう!
 - ③質問・意見は話し合いのチャンス! 理解への一歩!
 - 取り組みが進んでくると、「なぜ参加(協力)するのか?」「なぜ参加費を払って要員するのか?」「忙しいのに取り組めない!」「他の課題で手がいっぱい!」などの質問や意見がくり返し出てきます。ひとつひとつついていねいに応えていくことが、組織・運動発展の鉄則です。

日本中に「学ぶ」ことの意味を問いかけた山田洋次監督の映画『学校』で西田敏行が演じた主人公のモデルが松崎運之助さんです。1945年に中国東北部(満州)生まれ。中学校卒業後、三菱長崎造船技術学校・長崎市立高校(定時制)を経て、明治大学第二文学部卒業。東京の江戸川区立小松川第二中学校夜間部を経て、'06年3月まで足立区立足立第四中学校夜間部に勤務。著書に、『人生——わが街の灯』(1996)『母からの贈りもの』(1999)など多数。

自分が見えるのは、違ったものに出合った時です。違う感性、学歴、国籍、障害のある人に出合って“どうしてあの人は私と意見が違うの?”“なぜこういうことで泣いているんだろう?”と違う所に自分を見つめる目がある。“違うゆえに我有り”です。その違いが夜間中学にはあります。違いは僕らの宝であり、人生の宝なのです。

1945年の満州から引き揚げの混乱の中で兄は死に、その時母のお腹にいたのが僕でした。誕生日には必ずおまえの命の後には、無念の思いで死んでいったたくさんの子ども達の命がつながっていると、母は話してくれました。引き揚げた後、弟や妹が生まれ、父は家売り払って愛人とともに出て行き、母は日雇いをしながらぼくらを育ててくれました。僕は小学校3年の時から妹や弟を保育園に送り迎えをしていましたが、そこでの保母さんとの出会いがなかったら、今の僕はなかったと思います。毎日保育園に行くと、ぼくを抱え込むように大きな木の下に陰に連れて行って、エプロンのポケットからちり紙に包んだおやつを「家に帰って食べなさいね。きょうだい仲良くたべるのよ」と渡して下さるんです。ぼくがポケットにしまうのを見届けると、じっと見て「がんばるのよ」この一言にどれだけ救われたかわかりません。保母さんは僕が中学の時に原爆症で亡くなりました。


今も、その時のことを思うと背筋が伸びます。これが教育だと思います。目に見える点数や学歴ではなくこころのど真ん中に人生を支えるような熱い思いを育てていく、それが教育だと思うわけです。学ぶは教科書や学校と言う建物の中にあるのではなく、日々の暮らしや街のいたる所にいっぱいあるということです。(先生のこぼり)



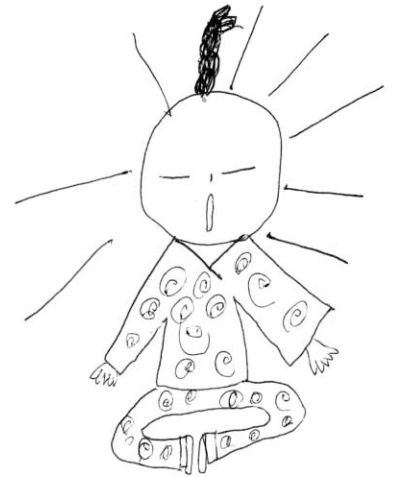
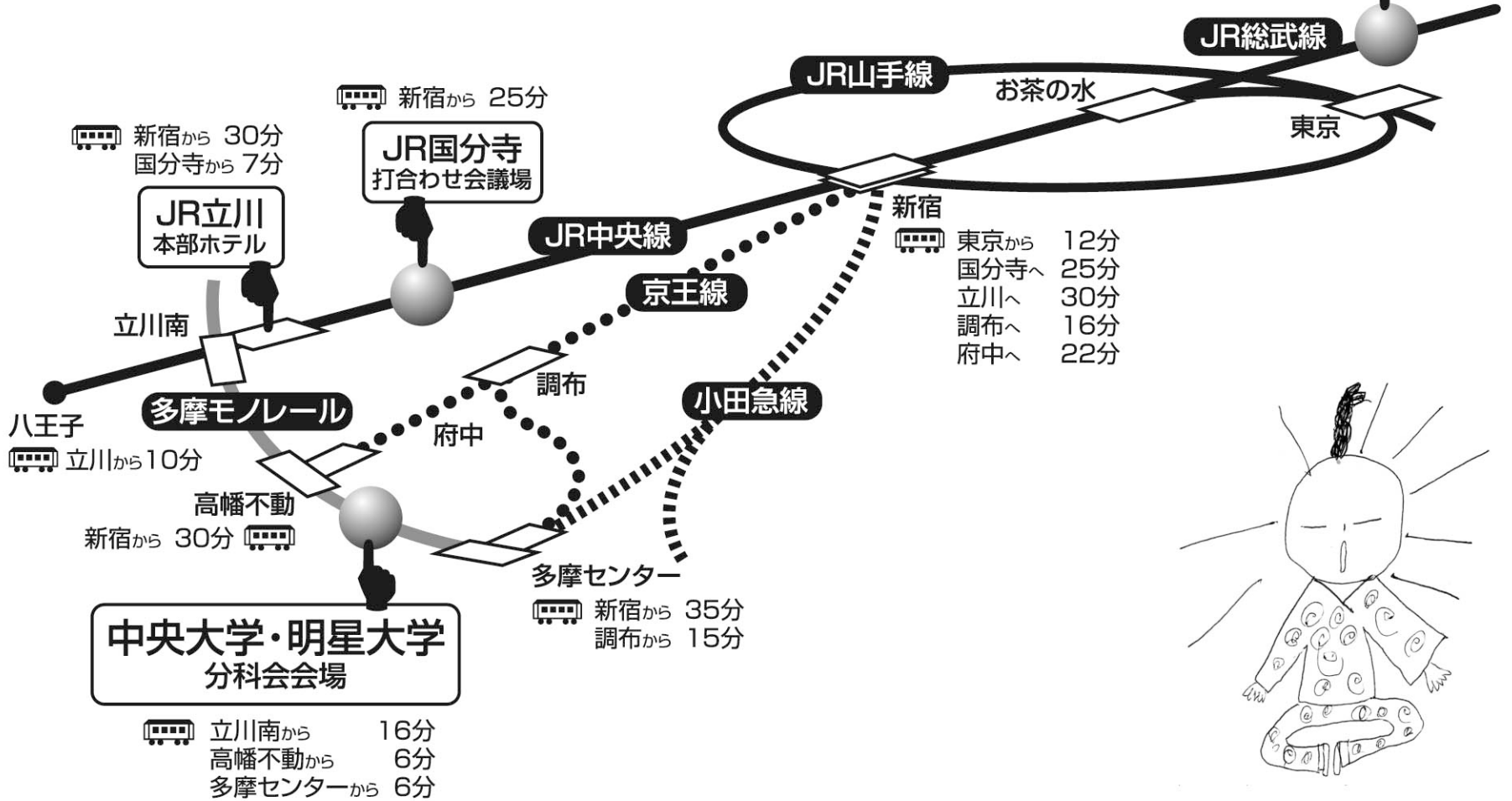
トスコイッ!

アクセスマップ



 東京から 12分
 新宿から 20分
 国分寺から 45分

JR両国
 両国国技館・全体会会場



TOKYO全国研へのメモ

